

情勢の変化に対応できる収益性の高い経営体の育成

～「軽労」「省力」で儲かる農業と持続可能な経営体づくり～

活動対象：旭川市西神楽就実地域（10戸）

当地域は、保肥力が極端に低いほ場が多いため施肥改善による高位安定生産に取り組んだ。秋まき小麦は、土壌硝酸態窒素に応じた窒素施肥の実施により、ばれいしょは実証展示ほ設置により推進した資材の導入が始まり収量が向上、てんさいは土壌診断に基づく施肥改善により収量を確保しつつコストを低減した。ブロッコリーは耐暑性品種導入と予察防除により生産が安定した。これらにより、地域の農業粗収益は、高く基準年（H22～28年の7中5）対比130%となった。

1 課題の背景

秋まき小麦 101ha、てんさい 93ha、ばれいしょ 88ha、を主体に輪作体系が確立。

秋まき小麦は平成25年から「キタノカオリ」、令和2年から「ゆめちから」に転換し、品種に対応した施肥が求められた。

ばれいしょ等畑作は保肥力の低い土壌に対応した施肥が課題となった。

ブロッコリー等葉菜類の経済性向上が求められた。

地域リーダーから後継者・若手経営者の栽培技術向上に向けた支援が求められた。

2 活動の経過

秋まき小麦では1戸1筆の定点調査を継続し、農業者との協議のうえ地域に合った施肥を推進した。ばれいしょ、てんさいでは、若手の学習の場としての実証展示ほを設置し活動した。ブロッコリーは個別巡回により初発に対応した防除を推進した。

項目	目標事項	活動年度				
		H28	H29	H30	R1	R2
秋まき小麦	「キタノカオリ」適正施肥の実施	→				
	「ゆめちから」適正は種の実施				→	
	「ゆめちから」適正施肥の実施				→	
ばれいしょ	ほ場条件に対応したばれいしょ施肥改善の実施		→			
てんさい	てんさい施肥改善の実施		→			
ブロッコリー	予察（初発に対応した）防除の実施	→				
野菜導入農家の経営安定化	シミュレーションによる品目作型の検討		→			



莖数調査（H28年11月）



ばれいしょ調査（R2年）



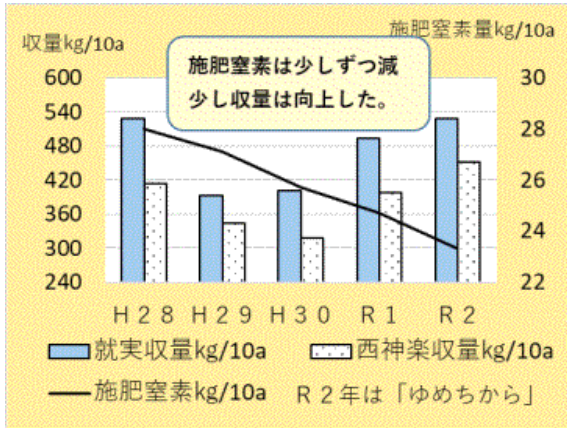
重点地区懇談会（R1年）

前年の根雪が早く、雪腐病が多発し、100haが廃耕申請されたが、関係機関と連携した栽培支援で、廃耕を40haに留めた。

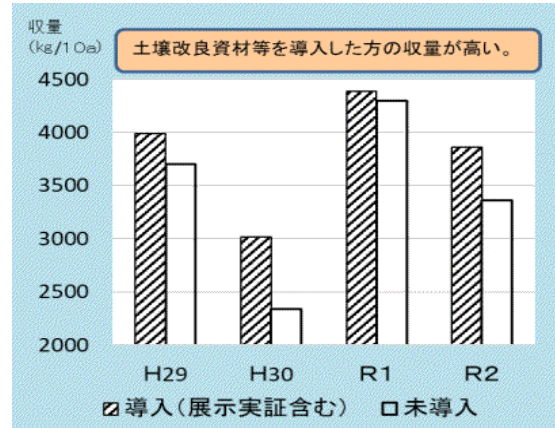
若手経営主に実証展示ほを設置し、生育状況を確認し、改善効果を共有した。

懇談会は、JAの戸別営農相談と連携した開催により毎年ほぼ全戸が参加し、栽培技術等の研修及び意見交換を行った。

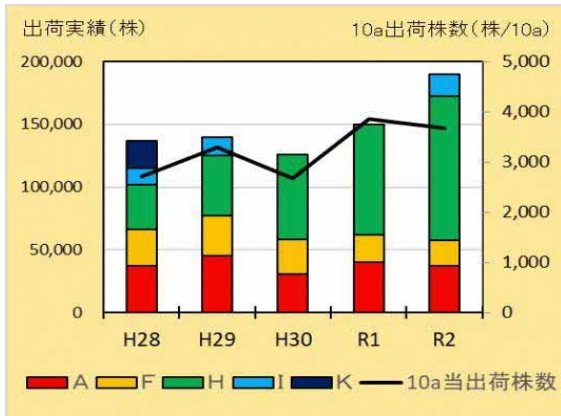
3 活動の成果



秋まき小麦の年次別収量と窒素追肥量



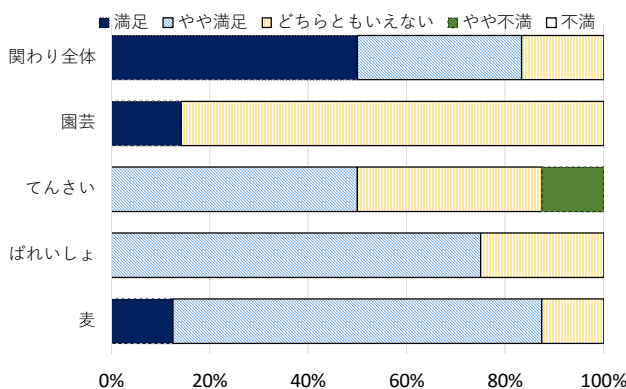
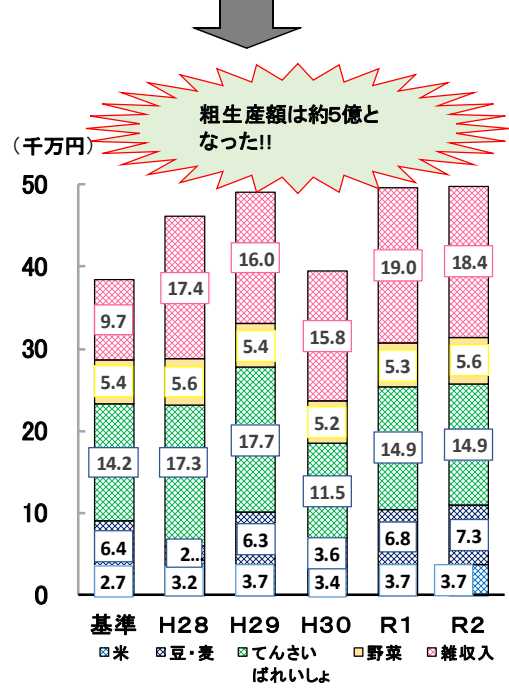
ばれいしょ資材導入有無別の収量推移



ブロッコリー作付け拡大と反収向上

土壌診断に基づくてんさい施肥改善による肥料費削減 (R2年)

戸数	面積(ha)	肥料費削減
7戸	60	261万円



農業者からの評価 (H30年)

普及センターの関わり

満足50%、やや満足33%

小麦支援への評価

満足13%、やや満足75%

農業者からの評価 (R1年)

土づくりには個人差もあるが、施肥の改善により全体的に増収した。

4 今後の課題

地域の土壌に対応した施肥技術が普及したことにより収量が向上し、地域の所得目標が達成されたため、重点普及活動は完了する。

秋まき小麦は西神楽全域を対象に「ゆめちから」に対応した施肥を推進する。